

[社 会]

考えたことを自分の言葉でまとめ、表現する力を 育成する小学校社会科学学習指導

－第3学年「わたしたちのまち みんなのまち～学校のまわり～」の実践を通して－

下澤 陽一*

1 研究の目的

平成20年、小学校学習指導要領の改訂が行われた。新学習指導要領社会科の改訂の基本方針として、「社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させる」ことや、「地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述すること」を一層重視することが示されている。また、具体的事項では、「読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習（知識を構造化し構成する能力の育成）」や「考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習（言語による表現活動の展開）」などの学習の充実が求められている。¹⁾

こうした改訂の基本方針の中で、注目すべき点は、言語活動の充実である。これまでの社会科の学習は、いわゆる「調べ学習」型の授業で、調べた結果を全体で発表するという展開方法がなされてきた。その学習活動の展開で、とりわけまとめの段階では、調べた結果を発表して終わるということが多かった。このように、今までの社会科学学習の課題を踏まえ、今回の改訂では、調べる活動だけでなく、調べた事柄を比較したり、他の事象と関連付けたりして考えるという学習活動に発展させていくことが求められているのである。また、このような学習の効果については、關がその著書で、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育成することにつながるものである²⁾と述べている。

そこで、本実践では、小学校3年生「わたしたちのまち みんなのまち～学校のまわり～」という単元において、調べたことを発表するだけにとどまらず、調べたことや考えたことをもとに、自分の言葉でまとめ伝え合う学習活動を試みる。また、本実践で組織した学習活動が、考えたことを自分の言葉でまとめ、表現する力の育成に有効であったかどうかを明らかにする。

2 研究の内容と方法

(1) 単元の構成と位置づけ

- ① 単元名 「わたしたちのまち みんなのまち～学校のまわり～」(3年生社会)
- ② 単元の目標

学校の周りの地域を探検して絵地図に表すことによって、地形、土地利用、交通など、場所によって特色があることを理解する。

③ 単元と目指す児童の姿

ア 児童について

児童はこれまでに、生活科の単元「わたしの町大好き」で、通学路で見つけた学校の周りの自然や人々の様子を紹介し合う活動を行ってきた。具体的には、町探検で学校周辺の地域や高田公園に行き、地域の自然や人々の様子について発見したことや考えたことなどを絵や文で表現するというものである。これらの活動では、特に身近な人々の様子、建物、動物、植物、昆虫などの様子に興味をもち、観察やインタビューをするなどして積極的に調べようとする姿が見られた。

このような生活科での経験から、地域のどこにどんな建物や景色があるか詳しく知っている児童がいるものの、学校周辺の土地利用の様子など、その特色まではとらえてはいない。つまり、「あそこに〇〇公園がある」「家の近くに

* 上越市立稲田小学校

〇〇というお店がある」というように、目に見える事象を漠然ととらえているにすぎないのである。

3年生になり、社会科や総合的な学習の時間で、学校の周辺の町探検をこれまでに何度か行ってきた。このような観察・調査活動に児童は大変意欲的に取り組むことができる。生活科での経験から、植物や動物の様子に関心が向きがちな子も多いが、調査活動で見つけた人や建物・景色の様子、交通の様子などを絵で記録したり、また短い言葉でメモをとったりできる子も多い。しかし、調査活動で見つけた多くの事実をもとに地域の大まかな特色や事実同士の関連を考えるまでには至っていない。

本単元では、調査活動を通して得られた多くの事実をもとに、学校周辺の東西南北の様子を比較し、違いを明らかにしていく中で地域の特色をとらえていけるようにしたい。また、これらの活動から、自分たちの身近な地域を社会的現象と関係させる見方や考え方を育てていきたい。

イ 単元について

本校の学区は南北に長い。学校のすぐ西側には関川が南北に流れ、東側には国道18号線が通っている。特に学校周辺の地域の道路沿い（県道板倉・直江津線）は、北から南にかけて雁木が多く、古くからの民家や商店が並んでいることも一つの特色である。また、県道の東西は雁木を除けば、比較的新しい住宅地となっている。学校の北側には、たてまち通りや稲田3丁目の雁木があり商店が並んでいる。水田や畑は、住宅地の周囲に広がっている。さらに、寺・樋場・子安など校区の北端、南端に位置する地域には新しい住宅が並び、特に最近では樋場に郊外型大型ショッピングセンターが開店するなど、新しく発展している地域も見られる。なお、今回観察・調査する地域は、短時間でも出かけられる学校周辺の稲田1丁目から4丁目の地域とした。

学校の周りの地域の学習は、学校の周囲の道路に沿った地域を調べることから始めることにした。どんなものがあつたか、景色はどうだったか、音はどうだったかなどを探検カードに記録し、教室でふり返り、それぞれが気付いた地域の特色についてお互いの意見を交流させる活動を行う。実際に歩いて観察する活動を通して子どもたちは興味・関心をもって活動に取り組むことが期待できる。

子どもたちは地域の「どこに何があるか」ということは理解できていても、地域の全体的な特色を大まかに把握することはできていない。そのため、学校の周辺を観察・調査する活動やその後のふり返りで、地域の場所による違いを明らかにし、地域の特色を大まかにとらえていく姿を期待している。

(2) 指導の手立て

学校の周りの地域の特色を児童が理解するために、大きく分けて二つの段階が必要であると考えた。

第1段階では、学校の周りの様子を観察、調査し、その結果を絵地図に表す。実際に、学校の周りの地域を探検し、どこにどのような店や建物があるのか、どのような景色が広がっているのかを知る必要がある。これは地域の特色を考える上での基盤となる学習活動である。

第2段階は、観察、調査したり絵地図に表現したりしたものをもとにして、地域の様子は場所によって違いがあることを社会的条件と関連付けながら具体的に考える。

以上の段階を踏まえ、次の4つの手立てを考えた。

① 視点をもった観察・調査活動（第1段階）

学校の周辺の地域は、児童が日頃見慣れている場である。そのため、普段見ている景色を詳しく見ようという意識は生まれにくい。そこで、学校の周辺を探検する際には必ず観察・調査の視点を与えるようにする。

視点は、①聞こえてくる音②人の様子③道路や車の様子④建物や景色⑤店の数や種類である。このような視点をもって、観察・調査することで普段見慣れた事象にも新たな気づきが得られると考える。

② 調べた事実をふり返る場の設定（第1段階）

調査活動の後、個々の児童が調べた事実をふり返る場を設定する。どこにどのようなものがあつたか、他の地域との違いは何かなど、調べてきた事実をもとにふり返ることで、学校の周りの特色が明らかになると考える。また、絵地図に表すことで視覚的にも地域的な特色を考えやすくなるのではないだろうかと考えた。

③ 少人数のグループでの活動（第2段階）

普段の授業では、進んで発表する児童に限られている。しかし、その他の児童も考えはしっかりもっている子が多

い。これは大勢の前で発表することに抵抗があるためであると考え。そこで、4～5人の班で意見を出し合う活動を組織する。少人数にすることで、大勢の前で発表することに抵抗のある児童でも発言しやすくなるであろうし、どの児童も学習に参加できると考える。

④ 段階的に学校周辺の特色を考える活動（第2段階）

学校周辺の特色を考えるための活動を2段階に分ける。第1段階は、学校周辺の東西南北でそれぞれ見たものや気付いたこと、分かったことを付箋紙に書いて貼っていく。第2段階は、第1段階で出た意見や気づきをまとめ、特色を文章化するというものである。いきなり、「学校の周りの特色は何か」と児童に質問しても、漠然としていて考えにくいであろうと思われる。そこで、このように、学校の周辺の特色を考える過程を2段階に分ければ、児童も考えやすくなるのではないかと考えた。

(3) 指導計画（全16時間）

1次 家の近くや学校のまわりで見つけたお気に入りの場所やふしぎを出し合う。（2時間）

2次 学校のまわりのたんけん・絵地図の作成（10時間）

- ・学校周辺の東西南北を探検し、その都度どんなものがあったか、ふりかえりを行う。
- ・探検を通して見つけた建物や商店、土地利用の様子を書き込み、絵地図としてまとめる。

3次 まちたんけんのまとめ（4時間）

- ・絵地図にまとめた活動から、学校周辺の東西南北各方角ごとの特色をまとめる。

3 実践と考察

(1) 視点をもった観察・調査活動

町探検には、各方面に2回ほど行っている。

1回目の探検では、自分の気付いたことを探検シートに自由にメモさせた。探検シートの児童の記述では、「カラスがいた」「たんぽぽの花がたくさん咲いていた」「雁木にツバメの巣がいくつもあった」など、自分の興味のある動植物についての記述が非常に多かった。これは、生活科での学習の経験が影響していると考え。

そこで、2回目は5つの視点（①聞こえてくる音②人の様子③道路や車の様子④建物や景色⑤店の数や種類）を与えた上でメモを取らせるようにした。すると、2回目では1回目のメモには見られなかった、車の音や建物の様子、人の様子に関する記述が格段に増えた。また、道路の交通量の違いに気づく児童がいたり、店の数を数える児童が出てきたり、学校の周りの様子をより詳しく観察することができるようになった。このように視点をもって調査・観察することで、普段の見方とは違う見方ができるようになり、子どもが徐々に社会的な事象に目を向けられるようになってきたと言える。

(2) 調べた事実をふり返る場の設定と活動

観察・調査活動のふり返りでは、黒板に探検した地域の白地図を貼り、どこに何があったか確認をした。児童は本単元で初めて地図を作成するため、このふり返りの活動で、建物や田畑がどのように広がっているかよく確認しておく必要があった。

児童には、見つけた建物や店、田畑などを発表させ、地図上ではどこに位置するのか一つ一つ確認していった。ところが、児童は見つけたものが地図上のどこに位置するのか分からないことが多かった。そこで、探検の際に撮影した写真と地図を対応させて確認していくことにした。まち探検の際に用いたものと同じ地図を拡大したものを用意し、その地図上に、まち探検の際に建物や景色などを撮影した写真を貼った。写真を提示すると、児童が曖昧に記憶していた事実も確実に確認することができる。

また、絵地図作りは個人で行い、店や建物を表す共通の記号を決めて行った。



写真1 授業で使った地図

店は赤色の四角，家は家の形を簡単に表したもの，緑の多いところは緑色で塗る，というように子どもが地図上に書き込みやすいように，ごく単純なものにした。その他の地図表現に関しては，個々に工夫して表現してよいこととした。子どもの地図を見ると，雁木のある通りには茶色で色を塗るなどの，独自の工夫も見られた。この工夫からは，児童が雁木に対して，他の住宅とは異なる，地域の特徴的なものとして認識していることが分かる。

絵地図作りという，児童が普段見ている3次元の景色を平面に表現する活動は，児童にとって難しいものだったが，このような工夫をすることで簡単なものではあるが，どの児童も作ることができた。

(3) 少人数のグループでの活動・段階的に学校周辺の特色を考える活動

「学校の北側の特色を考えよう」

① 目標

○学校の北側の地域の探検を通して気付いたことやわかったことをまとめ，学校の北側の地域の大まかな特色に気付く。

② 展開 (13/16時)

時間	学習活動	主な発問 (●) 予想される児童の反応 (・)	支援 (○) と評価 (△)
10分	1. 本時のめあてと学習内容を確認する。	●班で学校の北側の特色（他の方角と違うところ）をまとめます。 ◎学校の北がわはどんなところだろうか。 ●町探検をして分かったことや気付いたことを付箋紙に書いてワークシートに貼りましょう。その後，北側の他の方角との違いを文章にします。	○学習のめあてと内容を板書する。 ○特徴を考える際の視点を提示する。 △学習内容を理解しているか。(行動観察)
20分	2. 班で学校の北側を探検して気付いたことや分かったことを付箋紙に書き，ワークシートに貼っていく。 3. 班で学校の北側の特色を話し合い，文章にする。	●まず，北側を探検して気付いたことや分かったことを付箋紙に書いてワークシートに貼りましょう。 ・古い家や店がある。 ・雁木がある。 ・お店が多い。 ・畑や田んぼがない。 ・車がよく通る道路がある。 ・お麩屋さんがある。 ●貼り終わったら，文章にしてみましょう。稲田のことを知らない人に稲田の北側の地域を紹介するとしたら，どんな風に紹介しますか。班で話し合って，簡単な文にしてみましょう。	△気付いたことや分かったことを書いているか。(ワークシート①) ○各班の活動の様子を見ながら，必要があれば助言をする。 ○班で多く出た意見をもとに文章にするように声をかける。 △班で話し合い，文章にまとめることができたか。(行動観察・ワークシート②)
15分	4. 学校の北側を表した文を発表し，全体で吟味する。	●班で考えた文章を発表しましょう。 ・古い家やお店が多いところ。 ・畑や田んぼがなくて雁木があるところ。 ・お麩の店があるところ。 ●一番紹介するのに分かりやすいのはどの文かな。 ・お麩の店は他にもあるから分かりにくい。 ・古いお店やお店が多いところが分かりやすいかな。 ・一番古そうな雁木があるところがいい。	○児童が発表した文章の要点を板書していく。 ○紹介文として分かりやすい文を考えさせる。 △みんなにわかりやすく発表しているか。(行動観察) △他の意見と自分の意見を比べながら聞いているか。(行動観察)

③ 学習活動の実際

これまで，児童は学校周辺の地域を何度か探検し，絵地図にまとめる活動をしてきた。本時では，これまでの活動

のまとめとして、まず学校の北側の地域の特色を考える活動を行った。

まず4～5人の生活班に分かれ、学校の北側の様子を付箋紙に書き、ワークシートに貼っていく。ここでは、これまでの観察・調査活動で見たものや感じたことなどをまとめられるように意識付けた。また、付箋紙は同じ考えや似た考えのものは同じ場所にまとめて貼るように指示した。そうすることで、同じ考えや似た考えを意識させることができると考えたからである。

次に、まとめられたワークシートを基に、北側の地域の特色を文章にまとめた。ここでは、班での話し合いによって、北側の特色をおおまかに捉えられるようにしたい。そのために、「稲田のことを知らない人に稲田の北側の地域を紹介するとしたら、どんな風に紹介しますか。班で話し合っ、簡単な文にしてみましょう。」と指示した。このように指示することで、より児童に地域の特色を意識させることができるのではないかと考えた。

最後に、各班が発表し、各班で考えられた文章が紹介文として適切かどうか、吟味する。

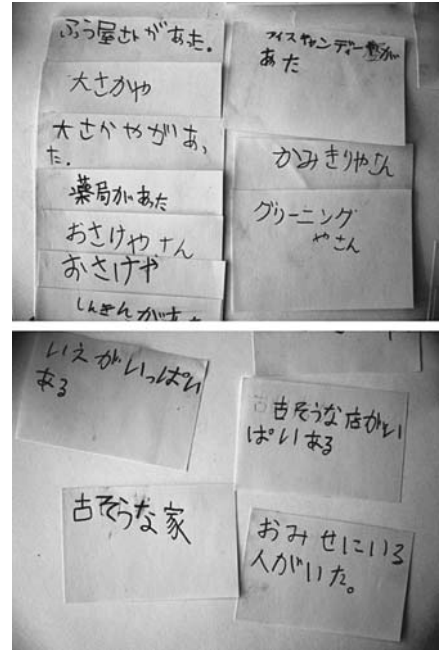


写真2 ワークシートの付箋紙

④ 考察

まず、付箋紙に探検や絵地図から気付いたことや分かったことを書いて貼るという段階では、どの班でも自分の調べたことをもとにして、付箋紙に調べたこと・気付いたことを書き、一人数枚ずつ貼ることができた。また、文章化する際も、班で協力し、たくさん出された個別の事象をなんとか文章化としてまとめようとする姿が見られた。これらの点から、全員が授業に参加することは達成されたと考えている。

次に、付箋紙が貼られたワークシートの分析である。ワークシートを見ると雁木に関する記述や古い家屋に関する記述が多くなっている。また、商店に関する記述も多く書かれていた。そして、付箋紙が貼られたワークシートをもとに学校の北側の特色を文章化する段階では、次のような文章が児童から出された。

A班

学校の北側は、広い道や狭い道があります。車がいっぱい通っていました。雁木は、ツバメの巣ができやすい場所です。もっと北を探検して色々見つけたいです。

B班

学校の北側は、雁木があって、ツバメの巣があります。お店が多くて車もいっぱい通っていました。床屋さんが5軒ありました。広い道には車がいっぱい通っていました。

C班

学校の北側は、雁木が多いです。たてまち通り、稲田3丁目の雁木通りなどがあります。たてまち通りの近くの雁木は、服屋が多いです。信金の近くに大阪屋があります。なかよし保育園もあります。

D班

学校の北側は、お店がいっぱいあります。雁木、たてまち通りがあるので、雨の日は、あまり濡れないので便利です。人はいっぱいいて、静かでいいところです。雁木は、たまに「カタカタ」と鳴ります。アパートがあります。

E班

学校の北側は、雁木がいっぱいあって食べ物屋がいっぱいあります。自転車の音とか車の音とか人の声がいっぱいして賑やかでした。いっぱい店がつながっています。新しい家と古い家がありました。

いずれの班の文章にも雁木について記述されている。このことから、児童が学校の北側について雁木が多く残っていることを、その特色として考えていることが分かる。さらに、店が多く商店街になっていることもその特色として考えていることが分かる。

また、最後の全体での吟味の際にも、紹介文には「雁木」があるということは必ず入れるべきであるという意見が出された。このように、どの班も学校の北側の地域についての特色を文章化することができた。ただし、残念ながらこの文章化では、事象と事象の関連を説明するにはいたらず、事象と事象を羅列しただけという形にとどまった。これは、調べた事実をふり返る段階で、事象と事象の関係を考える学習が不足していたためであると考えられる。この段階で、「なぜ雁木が多く残っているのか」、「道路沿いに商店が多いのはなぜか」などを考える活動を加えれば、児童の社会認識がより深まったであろうと考える。

4 成果

本実践の成果として2点挙げられる。

1点目は、学校の周りを、視点を持って観察・調査することにより、子どもは社会的な事象にも目を向けられるようになった。また、観察・調査活動を通して、その結果を絵地図に表すことができたことである。3年生にとって、地図を作るという経験は今回が初めてであった。普段見ている3次元の景色を平面に表すことは難しい学習ではあるが、白地図と写真を対応させ、全体で確認する活動をすることにより、どの児童も絵地図に表すことができたと考えられる。

2点目は、観察・調査活動で得られた結果を発表したり、絵地図に表したりするだけでなく、それらをもとにして、学校の周辺の地域の特色を児童が意見を互いに交流し合い、文章として再構成することができたことである。児童が観察・調査活動から得られた様々な情報をもとに、班で意見を交流させ、学校の周りの地域の紹介文として表現できたことは大きな成果である。本実践で組織した学習活動を通して、児童がただ調べた結果を発表することにとどまらず、調べた結果からさらに考えることで、3年生なりの認識ではあるが、学校の周りの地域の見方や考え方も変容を見せた。また、実践以前では、探検で発見した個別の事象をそのままワークシートに記述しているだけであったが、実践後半の紹介文を作る活動では、調べた事実を総合的に考え、地域の特色を表現することができた。このことから、調べた結果を表現する力も付いてきていると考える。

5 今後の課題

本実践の課題は、互いの考えを十分に深めることができなかったことである。私は付箋紙が貼られたワークシートをもとに、班で話し合い、文章化していくという姿を予想していたが、実際には付箋紙が十分に活用されていなかった班も見られた。ある班では、一人一人文を書いていくという方法がとられており、個々の子どもが考えた文をうまくつなげ合わせるという活動になっていた。したがって、付箋紙が貼られたワークシートを活用し、事象と事象の関連を考えさせる手立てが必要であった。また、このように付箋紙を使用した話し合い活動は、子どもたちも慣れていなかった。今後、このような形での話し合い活動の経験を積むことで、より意見交換が活発になされるようになるだろうと考える。

引用文献

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領社会編」, 東洋館, 2008年, p3~p.4
- 2) 關浩和 著「小学校新教育課程 社会科の指導計画と授業づくり」, 明治図書, 2009年, p.16

参考文献

- ・森分孝治, 片上宗二 編「社会科重要用語300の基礎知識」, 明治図書, 2000年
- ・上條晴夫, 江間史明 編「ワークショップ型授業で社会科が変わる 小学校」, 図書文化社, 2005年